

## 景気ウォッチャー調査・近畿地域結果(平成27年9月)

### ～現状判断は3か月連続で低下と気になる動き～

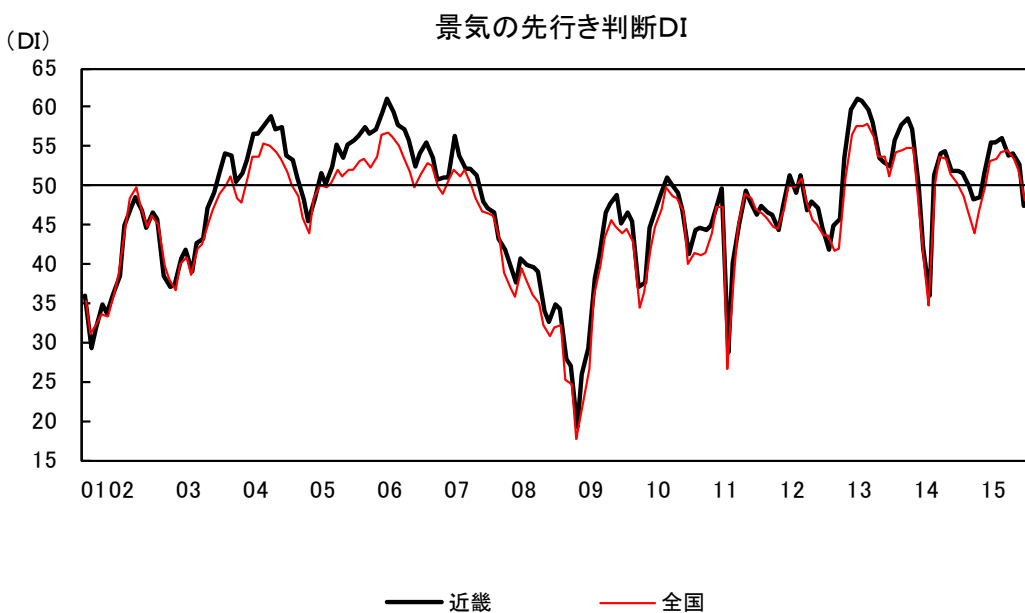
- 景気ウォッチャー調査・9月調査の近畿地域の結果は、現状判断[方向性]が3か月連続で低下したほか、先行き判断も大きく低下した。
- 足元の状況については、インバウンド関連の好調が続いているほか、シルバーウィークに伴う各種消費の増加がみられたものの、月前半の気温が例年よりも低めであったほか、雨も多く、季節商品の売上不振や客足の減少につながった。また、中国経済の減速が株価の低下を招き、マインド面に悪影響が出たことなどで、現状判断DIの低下につながったとみられる。
- プレミアム付商品券の販売効果については、利用が進んでいる中で、売上の増加につながったとの声がある一方、期待外れに終わったとの声も多く、依然として判断が大きく分かれている。近畿に限って言えば、効果は限定的とする声が多くなっている。
- 一方、先行きは、中国経済の減速に対する懸念の声が、インバウンドを含む消費関連を中心に多く聞かれるものの、プレミアム付商品券への期待のほか、年末に向けての景気の盛り上がりを期待する声が多く、DIの上昇につながっている。
- 今のところは、中国経済の減速に関する影響が消費関連に集中している。逆に言えば、製造業を含む企業取引にはまだ大きな影響は出ていないことを示しており、引き続き推移が注目される。

#### 「中国経済」関連のコメント(先行き判断)

やや良くなる	スーパー(店長)	・経済環境の厳しさは今後も変わらず、中国経済も恐らく安定しない。ただし、ボーナス支給での増加で、今までの節約疲れから一時的に解放され、消費のボリュームが増えることが予想される。
	スーパー(企画)	・米国や中国経済が持ち直すまではいかなくても、安定的な先行きが見えてくることから、日本経済や消費に好影響を与える。季節も変わり、年末年始に向けて消費も拡大する。個人の所得は確実に増えており、個人消費の潜在的な意欲は確実に高まっている。
変わらない	百貨店(売場主任)	・中国経済の不安定さからくる、株価の低下やインバウンド需要の減少などのマイナス材料による影響が懸念される。一部の商品を除いて、消費意欲が減退するなかで、国内の需要増には期待できない。気温の低下や経済の改善などが見込めない限り、現状よりも良くはならない。
	百貨店(マネージャー)	・秋物商戦における国内客の消費は、天候要因や大型連休、プレミアム付商品券などの影響で好調に推移しているが、10月の商戦が今後を左右することになる。見通しとしては、将来の消費税増税に関する報道などで生活防衛意識が強まり、消費の縮小傾向が続く。また、中国経済の減速がインバウンド需要に大きく影響することが予想される。
	百貨店(商品担当)	・中国の株安や景気の減速に加え、日本国内では安保法案成立後、消費税増税の軽減税率の話題が出ており、消費マインドは盛り上がりにくい。景気浮揚策が提示されたとしても、消費への影響は期待できない。
	百貨店(営業企画)	・中国や欧米の情勢が不安定な上に、次の消費税増税時の軽減税率では明確なメッセージが伝わってこないなど、消費マインドが改善しにくい。
	一般レストラン(経理担当)	・客の間では、中国の経済不安や物価上昇への懸念がみられる。一方、中国では国慶節で10月1日から連休に入るため、訪日外国人の急増が予想される。

家計動向関連	変わらない	観光型ホテル（経営者）	・インバウンドの増加はあるものの、中国景気の動向次第では減少の可能性もあるため、楽観視はできない。
		観光型ホテル（経営者）	・中国経済の失速や日経平均株価の下落などで、先行きの不透明感は強まっているが、今のところは先行予約も順調で、特に陰りはみられない。
		都市型ホテル（支配人）	・中国景気の悪化や、最近の株価下落が日本経済に与える影響は大きい。
		都市型ホテル（管理担当）	・原材料価格の高騰といった不安要素があり、楽観することはできない。また、安保関連法案の成立により、中国からの訪日客の動きにどのような影響が出るのかなど、不透明な部分が多い。
		通信会社（企画担当）	・中国の景気悪化が懸念されるものの、影響は少ない。
	矢や悪くなる	一般小売店〔貴金属製品〕（従業員）	・中国の景気が悪くなり、株価も下がったままである。
		百貨店（売場主任）	・株価の動きが不安定で、高額品に対する消費意欲が上がらない。一方、中国経済が停滞するなか、免税品の品目拡大から1年が経過するため、外国人観光客による購入は前年比でマイナスになる。
		百貨店（外商担当）	・中国の景気減速に加えて、ドイツの自動車メーカーの不正問題も発覚したことで、更なる世界的な景気減速や株安が広がる可能性がある。インバウンド消費も急激に増えた昨年から1年が経過し、前年比でみた場合のプラス要因がないことから、先行きは厳しい。
		スーパー（経営者）	・中国の経済不安による株安や景気の先行き不透明感により、当地域に多い輸出関連や自動車関連企業の業績の足かせになることが心配される。冬の賞与に対する不透明感が強まる一方、食品の値上げや実質値上げが続いており、消費者の価格に対する敏感さがより一層高まることが予想される。
		家電量販店（企画担当）	・中国の株価下落の影響で、中国人観光客の需要が見込めなくなる。
		テーマパーク（職員）	・アベノミクスの更なる推進について、どのような手段で現実化されていくのかが、今一つ分からないため、現状では何ともいえない。サイクルとしては、消費を伸ばすためには収入の増加が必要で、そのために就職率を上げるということは分かる。ただし、中国経済の減速が、どこまで国内の景気動向に悪影響を与えるのかがはっきりしないため、どうしても消費の伸びについては不安を感じる。
企業動向関連	変わらない	金属製品製造業（経営者）	・中国の株安や、ドイツの自動車メーカーによる不正問題が、自動車の生産台数にどのような影響を及ぼすか不安である。
		電気機械器具製造業（経営者）	・中国経済の不透明さ、米国の金利引上げという不確定要素がある。それによって新興国の成長が鈍化し、世界経済が縮小するのではないかと感じる。そのうち日本の生産活動にも影響が出てくる。
		金融業（営業担当）	・中国次第で、情勢が大きく変化することが予想される。

(DIの推移)



(近畿地域のDI)

		年 13				14				15																
		月 9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9
現 状 判 断	近畿	54.6	52.8	55.8	56.1	55.6	56.3	60.8	43.6	45.9	47.9	51.4	49.3	49.4	47.0	45.4	47.6	47.8	53.3	54.6	54.9	53.1	53.3	52.4	51.4	50.5
	(全国)	52.8	51.8	53.5	55.7	54.7	53.0	57.9	41.6	45.1	47.7	51.3	47.4	47.4	44.0	41.5	45.2	45.6	50.1	52.2	53.6	53.3	51.0	51.6	49.3	47.5
先 行 き 判 断	近畿	55.9	57.7	58.5	57.3	49.9	42.0	36.0	51.4	54.1	54.5	51.9	51.9	51.5	50.0	48.2	48.6	51.6	55.5	55.5	56.1	53.7	54.2	52.6	47.3	49.9
	(全国)	54.2	54.5	54.8	54.7	49.0	40.0	34.7	50.3	53.8	53.3	51.5	50.4	48.7	46.6	44.0	46.7	50.0	53.2	53.4	54.2	54.5	53.5	51.9	48.2	49.1